



TKJ 基本シャーシセットアップマニュアル

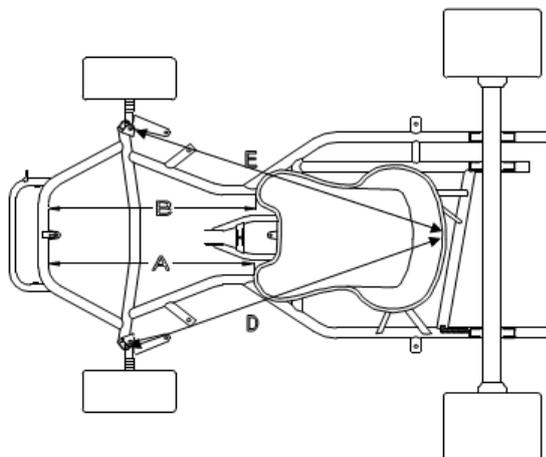
1. シート取り付け

標準シートポジションを参考にして取り付けてください。
路面コンディションが悪い場合、シートを 20-25mm 後方に移動しリア荷重にしてシャーシグリップを上げます。これにより、ドライバーがパワーをかけた時に効果が出ます。それでもグリップが悪い場合には、シートポジションを少し高くします。この変更により、よりタイヤに荷重をかけることができます。

(0037. FP OTKシートフラットボトム)



	A	B	C	D	E
ROOKIE	550mm	560mm	230mm		
KF	615	625	200	1050	1065





1A. ウエイトの取り付け

一般的なシャーシバランスは、どのくらいウエイトが必要かにもよります。通常、エンジンの反対側またはドライバーの太ももの下あたりに取り付けます。

1B. シートサポート

シャーシには、2本のシートサポートが付属されています（片側1本）。まず片側一本ずつから始めてください。ドライバーの体重をよりダイレクトにリアタイヤにかけさせるために、多くのドライバーが片側2本ずつを好みます。これによりシャーシのリアグリップが改善します。



各サイズ：280-300-320-340-380-400-BENT 340mm
アジャスタブルシートサポート



2. フロントトレッド

路面コンディションが低い場合、フロントトレッドを狭くすることでシャーシの初期の反応が向上します。しかし、これは高速コーナーでのシャーシパフォーマンスを下げる恐れがあります。

路面コンディションが良い場合（または普通）、シャーシを安定させるためにトレッドを広げます。これにより、高速コーナーでも安定して走ることが出来ます。

3. リアトレッド

まず OTK ホイルハズ 87mm を使用してください。通常、リアトレッドは一番広げた状態から始めます。

リアトレッドを、大人ドライバー約 1397mm、子供ドライバー約 1358mm にしてください。

フロントトレッドをそのままにしてリアトレッドを狭めていくと、コーナリング時にシャーシがインリフトしやすくなります。シャーシのコーナー進入時のバランスを見ながら調整してください。

またグリップの高い路面では、狭いリアトレッドは引っかけりすぎる場合もあり、中速コーナーではシャーシの過剰なグリップにより失速する場合があります。グリップレベルが低いときに、リアトレッドを狭めてより引っかけりを良くするなどのテストを行ってください。リアトレッドでもっとも重要なファクターは、シャーシバランスのフィーリングです。



4. キャスター/キャンバー

キャスター/キャンバーは、ナックルアライメントアジャストで変更することが出来ます。キャスター角の変更には専用のアライメントツールを使用します。上部ナックルアライメントアジャストの矢印を前方に、下部ナックルアライメントアジャストの矢印を後方にすると一番キャスター角がついた状態になり、これにより最大のフロントエンドグリップになります。路面の状態によりシャーシが曲がりにくくなる可能性もあります。ナックルアライメントアジャストを立てることでキャスター角を減らすことが出来ます。これにより、フロントエンドグリップが減り、ステアリングしやすくなります。慣れるまでは、基本セットのままキープしてください。



5. フロント車高

ナックルスペーサーにより、フロントの車高変更を行うことが出来ます。

フロント車高を上げる

グリップレベルが上がってきたときやシャーシがアンダーステアになってきたときに、フロントの車高を上げることで、よりフロントグリップが上がりハンドリングも向上します。

フロント車高を下げる

フロントの車高を下げることで、より軽くなった感じがします。これは、サーキットの路面グリップが上がったときにいいでしょう。



TKJ TECHNICAL DEPT.

6. アッカーマン/ステアリングアジャストメント

ステアリングシャフト47cmとステアリングシャフト47cm/SPと2種類あります。タイロッド取り付けプレートに2箇所穴があいています。通常一番下側の穴にタイロッドを取り付けると最もアッカーマンになるようになっています。上部の穴に取り付けた場合、アッカーマンは減り、よりステアリングが軽くなりドライバーの体力的に軽減されます。

ステアリングシャフト47cm/SPは、タイロッド取り付けプレートがより長くなっています。シャーシのフロントの反応とグリップを向上させます。

(写真下)



7. リア車高

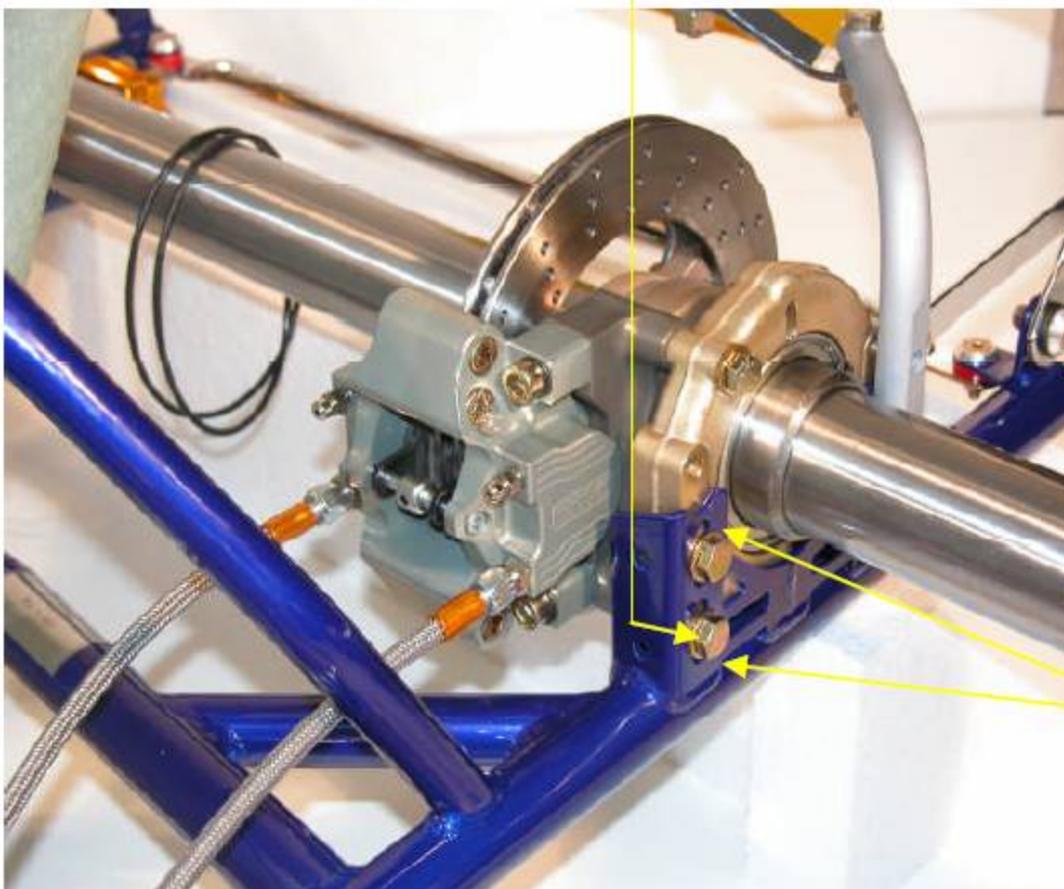
3段階の車高がありますが、通常真ん中の車高から始めてください。

リア車高を下げる

リア車高を下げるにより、リアグリップが減りよりシャーシの後ろ側が軽く動くようになります。通常これにより、コーナーリング時にインリフトが減り、またシャーシが路面に近いためブレーキングも安定します。

リア車高を上げる

リア車高を上げるにより、リアグリップが上がります。





9. リアシャフト

OTK リアシャフトは6種類あります。タイプNが、スタンダードになりミディアムの硬さになり、通常販売されるシャーシに取り付けられています。

一般的に柔らかいリアシャフトは、シャーシがより軽い動きとなります。しかしこれが合っている場合もありますが、OTK 製に関しては、硬いリアシャフトはグリップが上がったときに使用し、柔らかいシャフトはグリップレベルが低いときに使用します。これは、シャーシが柔らかい30mmチューブで作られているためです。柔らかいシャーシと柔らかいリアシャフトは、シャーシが引っかけたりすぎる原因にもなります。

通常80%はタイプNを使用しており、グリップレベルが上がったときにタイプHを使用します。リアシャフトはシャーシと別で考えず、シャーシとのバランスも考えて行ってください。

OTKリアシャフト硬度表

Type	Size	← SOFT	HARDNESS	HARD →
U	30x960	[Progressive bar from left to ~30%]		
N	30x960	[Progressive bar from left to ~50%]		
H	30x960	[Progressive bar from left to ~75%]		
P	40x1060	[Progressive bar from left to ~30%]		
N	40x1060	[Progressive bar from left to ~55%]		
C	40x1060	[Progressive bar from left to ~80%]		
E	50x1030	[Progressive bar from left to ~20%]		
U	50x1030	[Progressive bar from left to ~35%]		
Q	50x1030	[Progressive bar from left to ~50%]		
N	50x1030	[Progressive bar from left to ~65%]		
H	50x1030	[Progressive bar from left to ~80%]		
HH	50x1030	[Progressive bar from left to ~90%]		



TKJ TECHNICAL DEPT.

10. フロントトーションバー

通常シャーシには、オーバルタイプが取り付けられています。オプションでトーションバー30mm（厚さ1.0mm-1.5mm-2.0mm）が用意されています。サーキットコンディションの変更により、交換してください。2.0mmタイプが最も剛性が高くハイグリップレベル時に使用してください。



10A. リアトーションバー

通常ドライコンディションの場合は、取り外してください。このトーションバーは、シャーシをより安定させますが、かなり剛性が上がりタイヤに負担をかけ消耗が激しくなったり、アンダーステアになる可能性が大きくなります。

一方で、高速コーナーなどには有効です。そのため緩やかなコーナーが多いサーキットなどでは試してみることも出来ます。しかし、ハイパワーなカートに限ります。



TKJ TECHNICAL DEPT.

11. リアホイールハブ

OTK 87mmホイールハブ（ミティアム）から使用してください。

ショートハブは、フレキシブルになるため、パワーが低いカートなどに使用してください。

ロングハブは、リアグリップが上がり安定するためミッションカートやウエットコンディションなどに使用してください。

87mm



110mm



140mm



72mm



13. ウェットコンディション

- ・フロントレッドを最大限広げてください
- ・リアレッドを狭め、リアタイヤのセンターラインとフロントタイヤのセンターラインを合わせてください。
- ・シートサポートを緩めてください。（ナットが落ちないように注意してください。）
- ・フロントトーションバーを取り外してください。
- ・フロアプレートを緩めてください。

13A. ヘビーウェットコンディション

- ・フロントロングハブ（110mm）を使用して、最大限フロントレッドを広げてください。
- ・リアショートハブを使用して、リアレッドを狭め、リアタイヤのセンターラインとフロントタイヤのセンターラインを合わせてください。
- ・シートサポートを緩めてください。（ナットが落ちないように注意してください。）
- ・フロントトーションバーを取り外してください。
- ・フロアプレートを緩めてください。
- ・フロントの車高を上げてください。
- ・リアシャフトを柔らかいタイプに変更して、リア車高を上げてください。
- ・コーナーが緩やかな場合は、リアトーションバーを取り付けてみてください。
- ・シートポジションを上げて、ドライバーの重心を上げてください

80mm



110mm

